

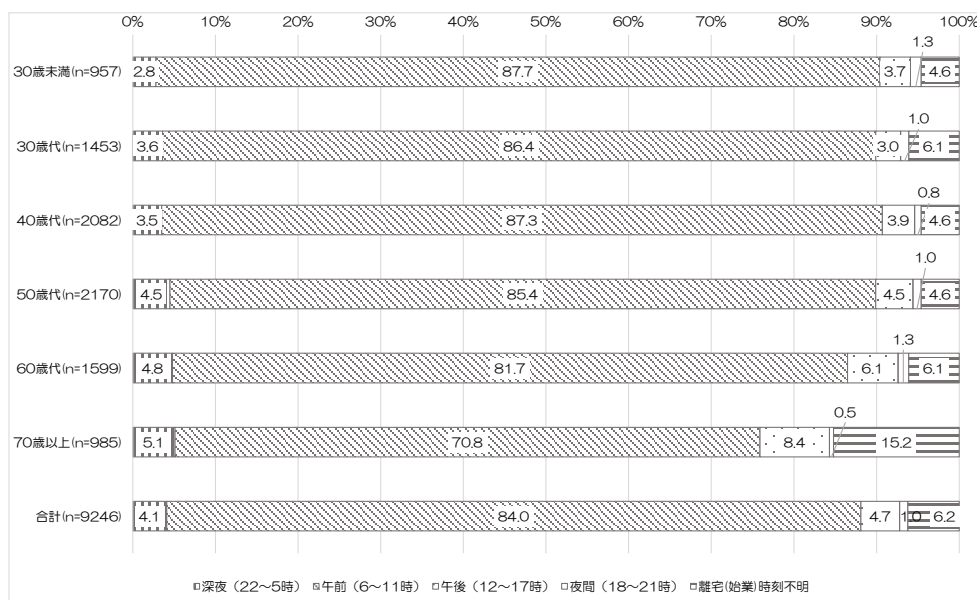
## VII 就労時間帯と生活

個人票問 12 において、「あなたの、先週の仕事時間についておたずねします。」として、(1) あなたは、仕事に行くために何時ごろに家を出ましたか。(2) あなたは、仕事から帰ってくると何時ごろに家に着きましたか。という質問をしている。これにより、仕事のために家を出た時間「離宅時刻」、仕事から家に帰ってきた時間「帰宅時刻」の情報を得ている。なお、交代制勤務など就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについて回答することとしている。離宅時刻と帰宅時刻の間には通勤時間が含まれ、子どもの保育園等への送り迎えがある場合にはそのための時間も含まれる。それゆえ、以下では離宅時刻と帰宅時刻の差分は労働時間ではなく仕事のために家を離れている離宅時間として取り扱っている。なお、在宅で働いている場合は仕事のために家を離れることはないが、仕事を始めた時刻を離宅時刻、仕事を終えた時刻を帰宅時刻として回答することとしている。このようにして働くために費やす時間とその時間帯を把握することを試みている。

### 1 性・年齢階級別の離宅・帰宅時刻

図表 VII -1 は働いている男性について年齢階級別の仕事に出る離宅時刻別の人数割合を示している。全体では離宅時刻は 6～11 時の午前中である者の割合は 83.4%であった。

図表 VII-1 年齢階級別仕事に出る離宅時刻別の人数割合（男性；%）



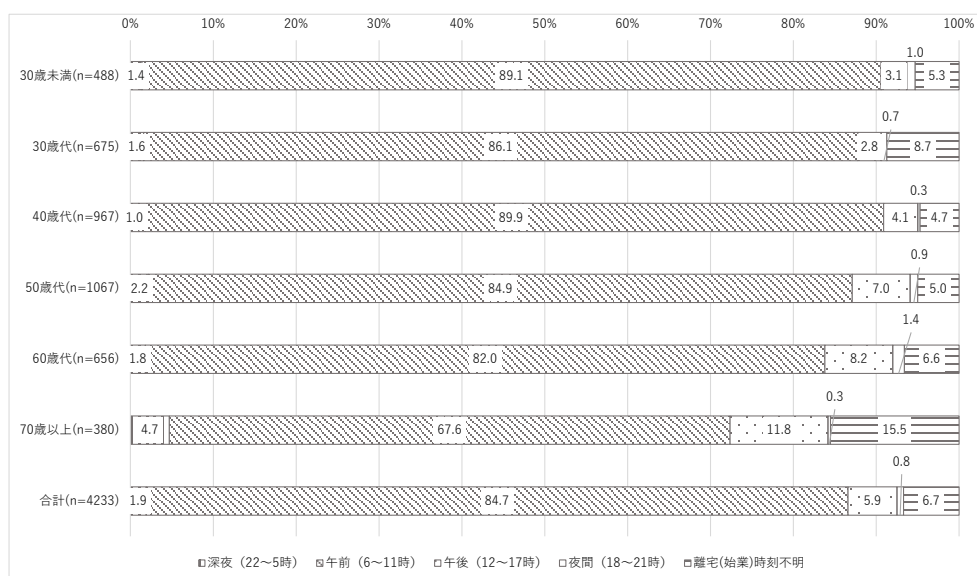
注) 個人票により集計している。分母に離宅（始業）時刻不明を含むが、就業状況不明、就業していない者を含まない。

年齢階級別では 30 歳代において 6～11 時の午前中である者の割合が 86.6%と最も大きか

った。70歳以上では72.7%と最も小さかった。22時～5時の深夜に離宅する者の割合は全体では5.9%であったが、50歳代(6.7%)、60歳代(6.9%)においてその割合が大きくなっていた。午後(12時～17時)に離宅する者の割合は70歳以上(6.3%)、60歳代(4.6%)、30歳未満(4.3%)において相対的に大きくなっていた。夜間(18時～21時)に離宅する者の割合は全ての年齢階層で小さかった。

同様に女性について見たのが図表VII-2である。全体では離宅時刻は6～11時の午前中である者の割合は84.7%と最も大きかった。年齢階級別では40歳代において6～11時の午前中である者の割合が89.9%と最も大きかった。男性と同様に70歳以上では67.6%と最も小さかった。22時～5時の深夜に離宅する者の割合は全体では1.9%であったが、70歳以上(4.7%)において最も大きかった。午後(12時～17時)に離宅する者の割合も70歳以上(11.8%)にて最も大きく、60歳以上(8.2%)、50歳以上(7.0%)も相対的に大きくなっていた。夜間(18時～21時)に離宅する者の割合は全ての年齢階層で小さかった。

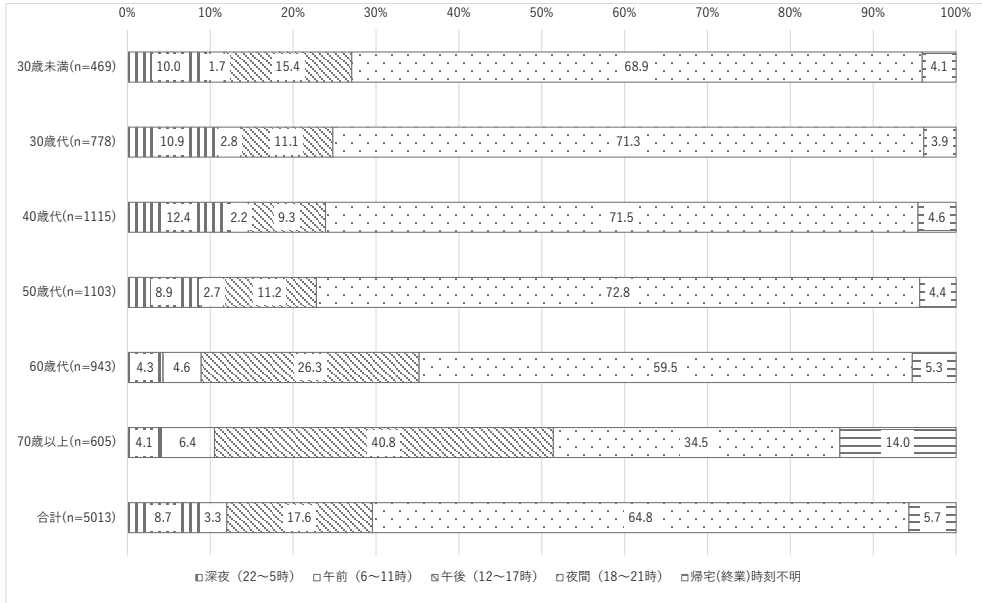
図表 VII-2 年齢階級別仕事に出る離宅時刻別の人数割合（女性；%）



注) 個人票により集計している。分母に離宅(始業)時刻不明を含み、就業状況不明、就業していない者を含まない。

働いている男性について、年齢階級別の仕事から戻る帰宅時刻別の人数割合を調べたものが図表VII-3である。全体では帰宅時刻は18～21時の夜間である者の割合が64.8%と最も大きくなっていた。年齢階級別に見ると、帰宅時刻が18～21時の夜間帯である者の割合が最も大きかったのは50歳代の72.8%であった。22時から5時の深夜に帰宅する者の割合が最も大きいのは40歳代(12.4%)、次いで30歳代(10.9%)であった。午前(6～11時)に帰宅する者の割合が大きいのは70歳以上(6.4%)であった。午後(12～17時)に帰宅する者の割合も70歳以上(40.8%)が最も大きく、次に60歳代(26.3%)であった。

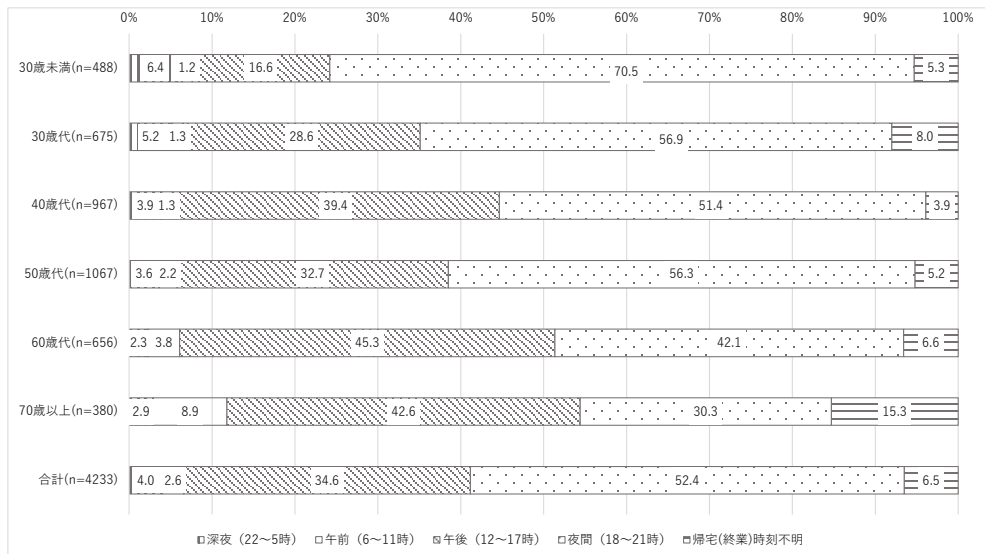
図表 VII-3 年齢階級別仕事から戻る帰宅時刻別の人数割合（男性；％）



注) 個人票により集計している。分母に帰宅（終業）時刻不明を含むが、合計に就業状況不明、就業していない者を含まない。

同様にして女性について年齢階級別の仕事から戻る帰宅時刻別の人数割合を調べたものが図表 VII-4 である。全体では帰宅時刻は 18~21 時の夜間である者の割合が 52.4%と最も大きかった。

図表 VII-4 年齢階級別仕事から戻る帰宅時刻別の人数割合（女性；％）



注) 個人票により集計している。分母に帰宅（終業）時刻不明を含むが、合計に就業状況不明、就業していない者を含まない。

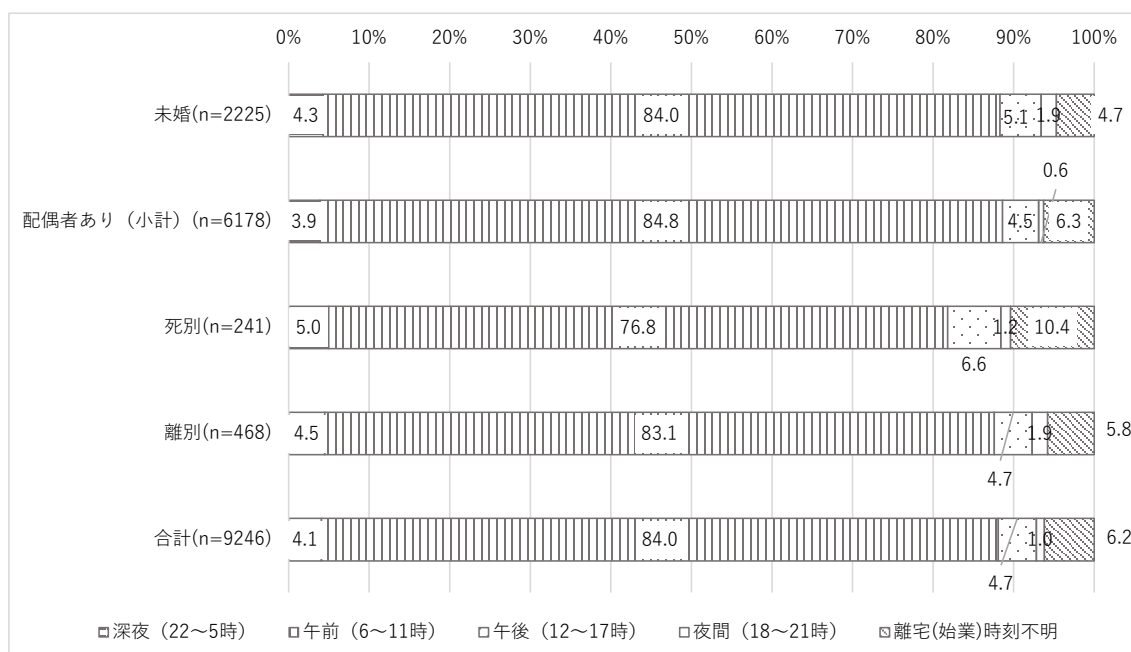
年齢階級別に見ると、帰宅時刻が18～21時の夜間である者の割合が最も大きかったのは30歳未満の70.5%であった。22時から午前5時の深夜に帰宅する者の割合が最も大きいのも30歳未満(6.4%)であった。午前(6～11時)に帰宅する者の割合が大きいのは男性同様に70歳以上(8.9%)であった。午後(12～17時)に帰宅する者の割合は60歳代(45.3%)が最も大きく、次いで70歳以上(42.6%)であった。

これらの結果をまとめると、次のとおりとなる。働いている男女はともに午前中(6～11時)に仕事に出て、夜間(18～21時)に帰宅するのが働き方の大宗を占めていた。男性の50歳代、60歳代、女性の70歳代において深夜(22時～5時)に働きに出る者の割合がそれぞれ若干増加する。午後(12～17時)に仕事から帰宅する者の割合は、女性は60歳代において最も高く、男性は60歳代から増大する。深夜に帰宅する割合は、女性は30歳未満で、男性では40歳代で最も大きかった。

## 2 婚姻状況別の離宅・帰宅時刻

婚姻状況別に仕事に出る離宅時刻別の人数割合を見たのが図表VII-5である。婚姻状況がいずれであっても、午前に離宅する者の割合が最も大きくなっているが、死別の者についてはやや小さく、76.8%であった。死別の者は、深夜(22時～5時)に離宅する者(5.0%)と午後(12～17時)に離宅する者の割合が6.6%とやや大きくなっていた。

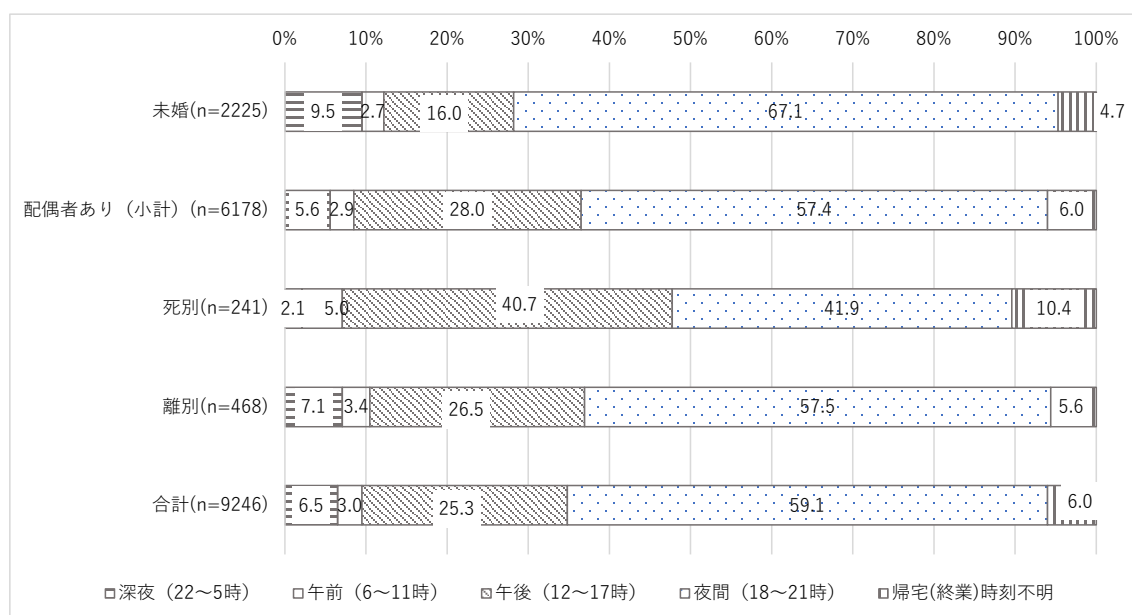
図表 VII-5 婚姻状況別仕事に出る離宅時刻別の人数割合 (%)



注) 個人票により集計している。分母に離宅(始業)時刻不明を含むが、合計には就業状況不明、就業していない者を含まず、婚姻状況に無回答を含む。

婚姻状況別に仕事から戻る帰宅時刻別の人数割合を見たのが図表 VII-6 である。未婚者においては夜間（18～21 時）に帰宅する者の割合が 67.1%と相対的に大きくなっていった。他方で、午後（12～17 時）に帰宅する者の割合がやや小さく 16.0%となっており、深夜（22～5 時）に帰宅する者の割合が 9.5%とやや大きくなっていった。死別の者は午前（6～11 時）に帰宅する者の割合が 5.0%とやや大きく、午後（12～17 時）に帰宅する者の割合が 40.7%と大きくなっていった。

図表 VII-6 婚姻状況別仕事から戻る帰宅時刻別の人数割合（%）



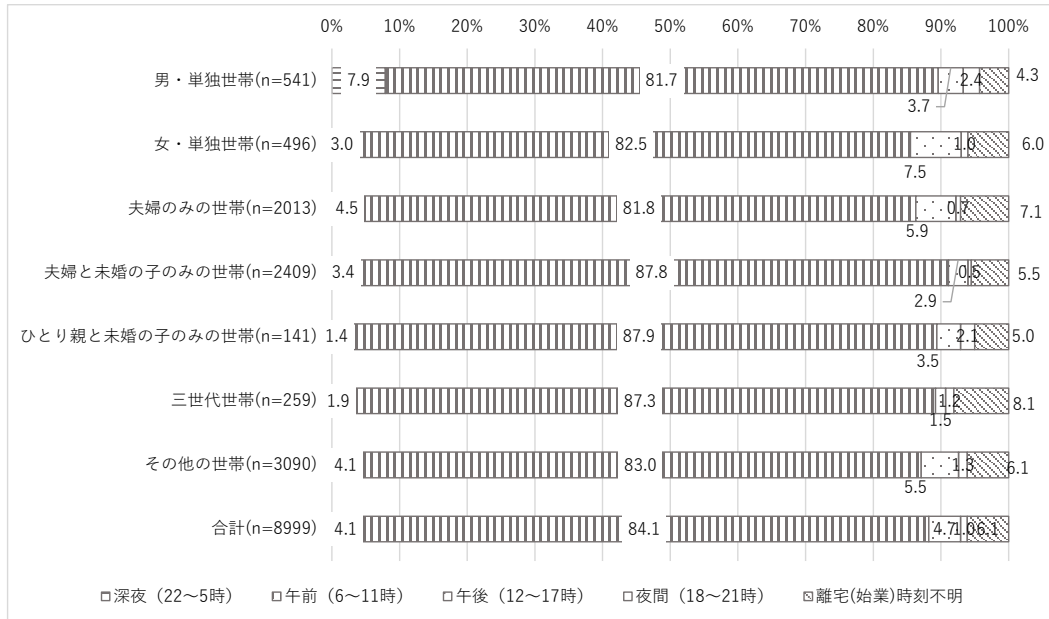
注) 個人票により集計している。分母に帰宅（終業）時刻不明を含むが、合計には就業状況不明、就業していない者を含まず、婚姻状況に無回答を含む。

### 3 世帯構造別の離宅・帰宅時刻

世帯構造別に仕事に出る離宅時刻別の人数割合を見たのが図表 VII-7 である。午前に離宅する者の割合が最も大きくなっているが、男・単独世帯では深夜（22～5 時）に離宅する者の割合がやや大きく、7.9%となっていた。また、午後（12～17 時）に離宅する割合は女・単独世帯（7.5%）、夫婦のみの世帯（5.9%）においてやや大きくなっていった。

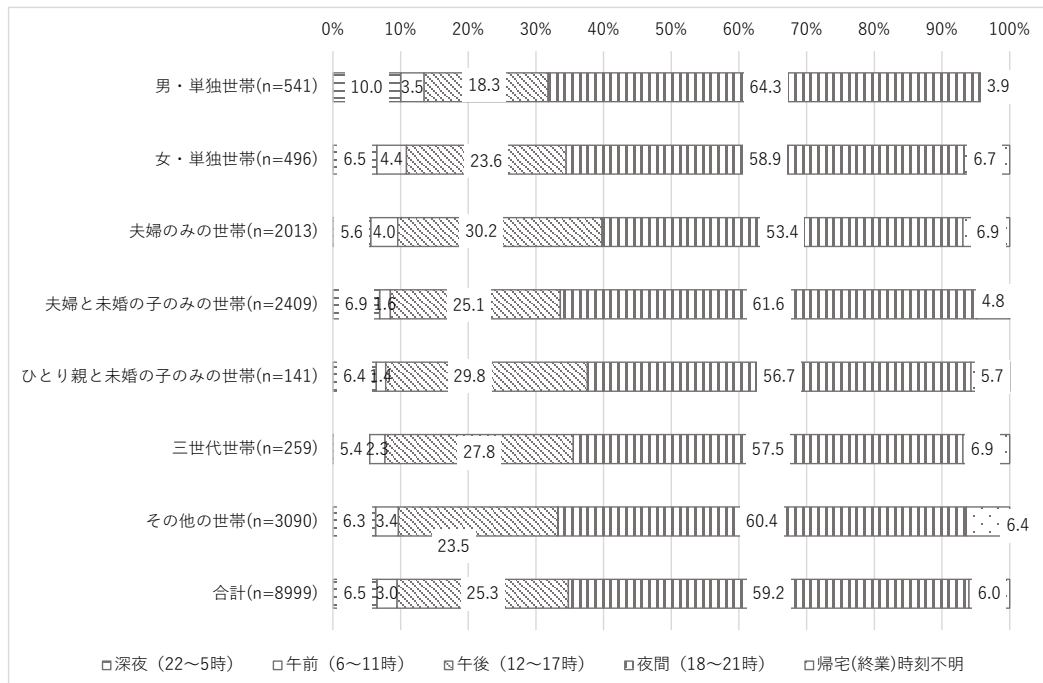
世帯構造別に仕事から戻る帰宅時刻別の人数割合を見たのが図表 VII-8 である。男・単独世帯において、深夜（22 時～5 時）に帰宅する者の割合がやや大きく、10.0%となっていた。また、午後（12～17 時）に帰宅する者の割合がやや小さく 18.3%となっていた。夜間（18～21 時）に帰宅する者の割合が 64.3%とやや大きくなっていった。

図表 VII-7 世帯構造別仕事に出る離宅時刻別の人数割合 (%)



注) 個人票により集計している。分母に離宅 (始業) 時刻不明を含むが、合計には就業状況不明、就業していない者を含まず、世帯構造の不詳の世帯、世帯構造の情報が利用できない者を含む。

図表 VII-8 世帯構造別仕事から戻る帰宅時刻別の人数割合 (%)



注) 個人票により集計している。合計に帰宅 (終業) 時刻不明を含むが、合計には就業状況不明、就業していない者を含まず、世帯構造の不詳の世帯、世帯構造の情報が利用できない者を含む。

#### 4 離宅・帰宅時刻と頼れる人の無い者の割合

仕事のために離宅・帰宅する時間によっては他者との交流が制限される可能性があり、結果として頼れる人の有無に影響する可能性がある。この点を検討するために、まず離宅時刻別の頼れる人の無い者の割合を確認したのが図表 VII-9 である。図の左上が働いている者全体について見たものである。これを基準とすると、就業していない者（図 VII-9 右上）は、「重要な事柄の相談」、「日頃のちょっとした手助け」以外について、働いている者よりも頼れる人の無い割合がやや高くなっていることがわかる。

図表 VII-9 離宅時刻別の頼れる人の無い者の割合（％）



注：個人票から集計している。分母に「そのことでは人に頼らない」者を含まない。働いている者小計に離宅（始業）時刻が不明を含み、就業状況不明を含まない。

働いている者の中では、午前（6～11時）に離宅する者（図表 VII-9 右中）はいずれの項目についても、頼れる者のいない者の割合が働いている者全体よりも低い。他方で、深夜（22

時～5時)に離宅する者(図表VII-9左中)や夜間(18～21時)に離宅する者(図表VII-9右下)は全ての項目について頼れる者のいない者の割合が全体平均よりも高くなっていました。

同様に、帰宅時刻別の頼れる人の無い者の割合を確認したのが図表VII-10である。図の左上で示される、働いている者全体を基準とすると、深夜(22時～5時)に帰宅する者(図表VII-10左中)や午前(6～11時)に帰宅する者(図VII-10右中)はいずれの項目についても、頼れる者のいない者の割合が働いている者全体よりもやや高くなっていることがわかる。

図表VII-10 帰宅時刻別の頼れる人の無い者の割合(%)



注：個人票から集計している。分母に「そのことでは人に頼らない」者を含まない。働いている者小計に帰宅(終業)時刻が不明を含み、就業状況不明を含まない。